

5) 進行大腸癌 (2型) (advanced colon cancer) (症例 27 ; 図 10.103 ~ 図 10.105)

[画像所見]

二重造影像：回盲部に大きさ 30 mm の全周性の狭窄像 (apple core sign) を認める (図 10.103)

二重造影像：狭窄部の腸管壁の凹凸不整と壁硬化を認める (図 10.104)

圧迫像：回盲弁の腫大と陥凹性病変によるバリウムのたまりを認める。周堤のくずれは認めない (図 10.105)



図 10.103 背臥位二重造影像
apple core sign (⇒)



図 10.104 背臥位二重造影像
凹凸不整 (⇒)



図 10.105 背臥位圧迫像
回盲弁の腫大 (⇒), 陥凹像 (➤)

6) 転移性大腸癌 (metastatic colon cancer) (症例 28 ; 図 10.106 ~ 図 10.108)

腹腔内に発生した悪性腫瘍は、近位臓器ならびに大腸壁に主に漿膜側から圧排や癒着・浸潤の形態を起こしやすい。このような場合、原発性の大腸癌と違った形態をとり、片側性の狭窄像や両側性浸潤を伴う狭窄像を示す。胃癌は大腸に浸潤性に転移することが多い。

症例の転移性大腸癌は胃癌 (4型) の大腸転移であり、右結腸曲内側を中心に片側性の浸潤像を呈し、また、非連続性に左横行結腸にも片側性の小さな浸潤像がみられる。

[画像所見]

二重造影像：右結腸曲内側を中心に長さ 50 mm の腸管に片側性の浸潤および壁不整な狭窄像を認める (図 10.106)

二重造影像：非連続性に横行結腸左側にも片側性の小さな浸潤像を認める (図 10.107)

充盈像：右結腸曲に透亮像を伴う壁不整な狭窄像を認める (図 10.108)



図 10.106 背臥位二重造影像
片側性の浸潤および壁不整像 (⇒)



図 10.107 背臥位二重造影像
非連続性の小さな浸潤像 (⇒)



図 10.108 背臥位圧迫像
透亮像 (⇒)